成果の説明書

(氏名)　田戸岡 好香	(学部)　地域政策学部

１　重要事項

〇教育

「社会心理学」,「社会調査（量的調査)」,「社会調査演習」,「基礎演習」,「演習Ⅰ」,「演習Ⅱ」といった授業を担当した。加えて，本年度は「データサイエンス入門」を開講し，本学のデータサイエンス教育の基礎を形成することができた。演習Ⅱは 11 名のゼミ生の卒業研究を指導した。

授業外の活動として，夏季に地域づくり学科の 6 ゼミ合同で卒業研究中間発表会を行い，他ゼミの教員および学生と交流をした。また，奥多摩において森林セラピーを行いデータ取得・分析を行うフィールドワークを行った。

〇研究活動

科学研究費補助金（若手）を受けて,『在留外国人への援助政策の賛意を促進するには : ステレオタイプの内容に注目して』(研究代表者）という研究課題の下，オンラインでの調査および実験による研究を行った。また，共同研究として学内研究奨励費を得て,『本学における数理・データサイエンス教育の推進に関わる調査研究』という課題に取り組んだ。具体的な成果は以下のとおりである。

【学術論文】

樋口収・新井田恵美・田戸岡好香 (2024). 新型コロナ感染症のパンデミックにおける心理的特権意識について　パーソナリティ研究, 32, 188-198.

阿部圭司・佐藤敦子・田戸岡好香・水口剛・宮田庸一（2024）ESG 投資を促進する要因の検討 : サステナビリティおよび金融への態度とリテラシーに注目して　産業研究　59, 1-22.

藤岡慧・高橋美佐・田戸岡好香・石田崇・小林徹（2024）大学初年次におけるデータサイエンスに対する興味と情報リテラシーの関連　　産業研究　59, 63-83.

【学会発表】

田戸岡好香・小森めぐみ (2023).　メタステレオタイプの内容が外国人労働者のイメージと援助政策の賛意に及ぼす影響　日本心理学会第 87 回大会発表発表（@神戸国際会議場・神戸国際展示場，2023.09.15, 1C-031-PC, web プログラムのため，頁番号なし）

田戸岡好香・石井国雄 (2023).　外国人労働者の痛み耐性と精神的たくましさに関する認知バイアス　日本社会心理学会第 64 回大会発表論文集, 255. （@上智大学，演題番号 P24107，2023.09.07）

新井田恵美・田戸岡好香・樋口収 (2023).　経済状況と幼少期 SES が結婚のタイミングに及ぼす影響（1）　日本心理学会第 87 回大会発表発表（@神戸国際会議場・神戸国際展示場，2023.09.15, 1A-021-PC, web プログラムのため，頁番号なし）

樋口収・新井田恵美・田戸岡好香 (2023).　経済状況と幼少期 SES が結婚のタイミングに及ぼす影響（2）　日本心理学会第 87 回大会発表発表（@神戸国際会議場・神戸国際展示場，2023.09.15, 1A-022-PC, web プログラムのため，頁番号なし）

石井国雄・田戸岡好香 (2023).　ピンクと青に関するジェンダーイメージの検討　日本心理学会第 87 回大会発表発表（@神戸国際会議場・神戸国際展示場，2023.09.15, 1C-025-PC, web プログラムのため，頁番号なし）

植田穂・加藤樹里・田戸岡好香 (2023). エリートステレオタイプにおける有能さを損なわずあたたかさを高める涙の検討 日本社会心理学会第 64 回大会発表論文集, 252. （@上智大学，演題番号 P24104，2023.09.07）

上記に加えて，外国人への援助を促進する方策について検討した研究を学術論文として投稿し，現在査読中である。

書籍について，翻訳書籍の一部を担当し，2024 年度に発刊予定である。加えて，ジェンダーに関する書籍を共著で執筆中である。

〇学会・社会における活動

高崎カウンセリング協会において，講師として「暮らしに潜む思い込み」と題して講演を行った。

２　その他の事項

学内において，学生指導委員として，学生ボランティア活動支援室の運営および周知活動を行った。

加えて，基礎教育センターのデータサイエンス部会において，部会長として本学のデータサイエンス教育の推進を検討した。

学内の職員向け IR 研修において, 講師としてアンケート調査とデータ分析について講習を行った。

３　次年度以降の計画・抱負

教育面では，演習授業において，学生たちが成長するような教育を行っていく。実験や調査を通じて，学生たちの研究スキルを高めるとともに，研究リテラシーを養うことを目指す。さらに，学外でのフィールドワークを通じて，学生がより広い視野を得られるようにする。

講義科目では，最新の研究知見を取り入れつつ，心理学の観点から社会問題を読み解くような講義を行う。

研究面では，受給していた科学研究費によって行った研究を投稿論文の形にするなど，発信することに力を入れる。執筆中の書籍の出版を目指す。また，引き続き，共同研究も積極的に行う。

学内では，ボランティア活動支援室の周知活動を続ける。また，本学におけるデータサイエンス教育をさらに推進していくことを目指す。